

中海自然再生協議会（第6期、第1回）議事録案

平成29年6月17日（土）、13:30～16:00（16:05終了）

於 鳥取県西部総合事務所15会議室

（参加者名簿 別紙）

第6期協議会の開催に先立ち、第5期の熊谷昌彦会長から、第5期においては松江での全国会議の開催、第Ⅱ期実施計画案の作成など、活動が一層進んだこと、これらを踏まえて事務局のありかた等についても検討してきたこと、次期会長の選定にあたっては、これまでの方式とは異なり、自薦や他薦を問わず事前に募集することにしたことなど報告された。次に事務局から、國井秀伸氏（これまで協議会事務局長で、認定NPO法人自然再生センター副理事長）が次期会長に自薦されたこと、他には期日までに候補推薦はなかったことが報告された。次いで自薦書が読み上げられた後に、拍手で國井氏が第6期会長に承認された。また、第6期の公募委員および専門委員についても、候補者名簿にもとづいて承認された（新規に協議会に加わった公募の個人委員と団体委員については今後の抱負等について発言頂いた）。その後、國井新会長から挨拶があり、第6期の会長代理（および事務局長）は候補者が決まっていないが、第2回協議会までには決めて、報告・承認を得たいとの発言があった。

その後、第Ⅱ期実施計画（第5期において検討されてきた4つの計画）についての経過が國井会長（前事務局長）から、5月20日締め切りで計画案の提出を求めてきたこと、その後、6月6日にアドバイザー会議が開かれ、報告・検討を行ったこと、その上で再度計画案の再検討を求め、この協議会での報告・討論に至ったことが説明された。また、今回は専門家会議の開催が、環境省内の都合により、11月以降になる見通しであることが述べられた。なお、専門家会議は各協議会から出される計画についての可否を決める場所ではなく、推進法にもとづくアドバイスをしてくれる会議であること、第Ⅰ期の際には4つの実施計画を含めて協議会承認の実施計画として9つの計画を提出したことが説明された。この後、再提出された4つの計画案（なお、これらの内容については協議会会員には事前配布され、各自が持参する方式が採られた）についての説明がそれぞれの提案者からあり（カッコ内は提案者）、それぞれについて活発な質疑応答がなされた。

- ① 浚渫窪地の環境修復事業（桑原智之）
- ② 藻刈り事業（渡部敏樹）
- ③ 有用二枚貝（サルボウガイ）復活を目指す事業（川上 豪）
- ④ 中海湖岸域の利・活用プロジェクト（熊谷昌彦）

最後に新会長から、次の協議会は8月下旬～9月中旬頃に開催を予定し、第Ⅱ期計画案については、次期協議会までに前書きをつけるなどの体裁を整え、次期協議会に提出できるようにしたいとの発言があった。

中海自然再生協議会（第6期、第2回）議事録案

平成29年9月30日（土）13:30～15:30

於 島根県庁会議棟第4・第5会議室

（参加者名簿 別紙）

第2回 第6期中海自然再生協議会は、会長國井秀伸氏の挨拶、引き続き自然再生センター理事長徳岡隆夫氏の挨拶で始まった。議事に入る前に、前回第1回協議会で説明のあった第6期の会長代理（および事務局長）について、國井会長から神谷要氏（米子水鳥公園 館長）を会長代理候補者として推薦したいとの説明、提案があった。神谷氏はこの場は欠席であったが、拍手で神谷氏が第6期会長代理に承認された。

その後議事「第Ⅱ期実施計画書について」に入り、4件の実施計画書についてそれぞれの責任者から、あらかじめ委員にデータ送付されていた資料を画面に写し、読み上げる形で説明が行われた。発表者の時間的な都合により、予定されていた発表順をかえて、発表があった。

第Ⅱ期実施計画書の発表は次の通り（1、4、3、2の順序）。

1. 海藻類の回収及びその利用事業（渡部敏樹）
2. 有用二枚貝（サルボウガイ）復活を目指す事業（川上 豪）
3. 浚渫窪地の環境修復事業（桑原智之）
4. 中海湖岸域の利・活用プロジェクト（熊谷昌彦）

実施計画書は、（1）実施者の名称、（2）対象とする区域と位置図、（3）対象とする地域活動の現状、（4）取り組みの意義とその重要性、（5）取り組みの方法、（6）モニタリングの方法、の各項目からなり、それぞれについて説明があった。それぞれの計画書について活発な質疑応答がされ、誤解のないようにするための文章表現の削除、訂正や加筆、及び誤認のない図の表現等の一部修正の意見が寄せられた。

その後、國井会長から実施計画書の提出について、今後の流れについて説明があった。今回指摘された修正意見を取り入れて、責任者は修正した実施計画書を10月中に再提出する。事務局で推敲を行った後、環境省の担当の専門官にみてもらい、年度内に開催される環境省の専門家会議にあげるという手続きですすめるとの説明がなされた。

最後に國井会長から、次回の中海自然再生協議会は来年の3月に1回開催したいとの発言があった。（閉会 15:30）

中海自然再生協議会（第6期、第3回）議事録案

平成30年3月17日（土）、13:30～16:00（15:45終了）

於 鳥取県 西部総合事務所 新館B棟2階 第17会議室

（参加者名簿 別紙）

開会に先立ち、前回の協議会で承認された神谷氏（前回協議会欠席）から副会長就任の挨拶があった。その後、神谷氏の司会により報告と議事が進行した。まず2月9日に開催された平成29年度自然再生専門家会議について、資料（専門家会議の議事録）を用いての報告が國井会長からあり、当日の会議には会長と熊谷前会長が出席したこと、専門家委員からは2つの事業を中断した理由を記すこと、何故2つの実施者が第2期計画では抜けたのか、窪地の埋め戻しや海藻の刈り取り事業の調査研究以降どう発展させるのか、事業が全体的に面白みに欠けるといった様々な意見が出たが、最終的には第2期実施計画を進めてよいとのことであったことなどが紹介された。

次に、4つの実施計画の年次報告が資料を元にそれぞれの担当者（海藻類の回収及びその利用事業は倉田氏、浚渫窪地の環境修復事業は桑原氏、中海湖岸域の利活用プロジェクトは米子高専の永田、山内、上田各氏がそれぞれ「米子水鳥公園ネイチャーセンターの夏期温熱環境に関する研究」、「中海周辺の利活用実態に関する研究」、「ゴズ釣りマップの作成とゴズの地域ブランド開発へ向けた取り組み」を担当、有用二枚貝（サルボウガイ）復活を目指す事業は予定されていた川上氏欠席のため、自然再生センターの徳岡理事長が口頭で概略を説明）により行われた。ゴズ釣りマップの発表に関して質問を受けた上田氏は、今回は釣りをを行う場所を増やすこと、マップをいつどのような形で公表するかを考えていると回答した。

追加の報告として、昨年末に『『中海の自然再生10年史』作成とその普及』と題して応募した中国建設弘済会の平成30年度中国地方地域づくり等助成事業が採択されたとの報告が國井会長からあった。残念ながら採択額が申請額（およそ100万円）を大幅に下回る額（10万円）だったことから、実際に助成を受けるか辞退するかについて参加者と意見交換を行い、その結果、情報収集などできる範囲での活動を行うということで助成を受けることとした。

議事とされていた「全体構想の見直しについて」は、提案者である國井会長から、今回は議事というよりは提案という位置づけであるということで、中海の自然再生全体構想が策定されてから10年が経ち、特に目標を達成するための取り組みが実際の取り組みと乖離していることから第3期の実施計画策定前に整理する必要があること、そして自然再生基本方針がこの間に2回見直され（第1回目は2008年10月、第2回目は2014年11月）、生態系サービスや小さな自然再生の推進、あるいは地域コミュニティの再生といった初期には考慮されていなかった点が新たに含まれるようになったことから、次回以降の協議会で全体構想の見直しについて協議したい旨の発言があり、了承された。最後に、次回の協議会は9月頃を目途に開催し、9月と3月の年2回開催を基本とするということで意義なく了承され、散会した。